

## 参加者各位への報告<sup>※注</sup>

お陰様で6月23日(土)の「いい川づくりシンポ」、朝霞市黒目川で盛大に行うことができました。有意義なご質問や、短時間でのコンパクトな解説(市野川蛇行河川の工事現況など)を、ありがとうございました。

午前中の現場見学会は、約50名の参加がありました。朝霞市副市長もあいさつにお見えになり、地元としても歓迎ムードの開会となりました。大人数で2班に分かれる程でした(写真1、2)。

午後のシンポでは、会場が満席になる盛会で、朝霞県土新井所長、市野川の渡辺さん、柳瀬川の鈴木さん、の報告と九州大学大学院島谷教授の講演、4人のパネラーでの会場ディスカッションといずれも水準が高く、埼玉県が多自然川づくりの最先端を紹介することができました。午前・午後と通算80名以上の参加があり、多自然川づくりへの関心の高さがうかがえました。

埼玉県関係者からの参加者も多く、特に県河川行政担当の河川砂防課からの「官」の参加は、今後の川づくりにつながります。「民」から川の埼玉サポートセンターづくりの提案もあり、今後の方向性が示されました(写真3)。

ディスカッションでは、多自然川づくりの知見をどう確保するか、行政マンか、コンサルか、議論が白熱しました。埼玉では、川づくりへの大学の参加が少ない、今後は「学」の参加がポイントとなりました。当日はコンサル、河川技術会社など「産」の参加もあり、岐阜県・愛知県・宮崎県のような、工事施工業者の多自然川づくり参加が紹介されました(写真4)。

「産」からは、現場で川づくりについて話し合う市民がいる、いないで計画・設計が大きく違うこと、現場を見ないで設計することがあることなど、質の高い川づくりへの課題やヒントが語られました。

「官」からは、県土整備部内で河川・道路・下水を順繰りに担当し、人(担当者)が次々に入れ替わること、現場では職員が少なくなる中で、いい川づくりには大変なエネルギーの投入が必要なこと、それでも現場主義の仕事を貫くよう、努力していることが話されました。誰もが立場に縛られない、批判しないルールの話し合いが、様々な本音、現場の問題を引き出してくれました。

川づくり市民団体としては、仲間たちが積み上げてきた川づくりを知ることで、仲間の川づくりの到達点を総括することができ、次へのステップとなりました。

早々に、県河川砂防課との懇談を行い、今後の行動を検討してゆきます。さらにいい川づくりを進めましょう。

平成24年6月24日

主催者：新河岸川水系水環境連絡会 小林 一己

(注:このシンポジウム報告は、小林さんから事務局・渡辺への参加謝辞を一部編集し直して、本ホームページへ掲載したものです。)